資料1	第2回策定懇談会

第１回　（仮称）浦安市子ども図書館基本構想策定懇談会　会議録

1　開催日時　　平成 30 年 7 月 23 日(月)14 時～16 時 20 分
2　開催場所　　市役所 10 階 協働会議室
3　会議次第　　下記のとおり
4　出席者
（懇談会）：中澤委員、汐﨑委員、井上委員、羽田委員、杉山委員、山田委員、赤塚委員、大宮委員、河野委員、平岡委員（10 名全員の出席）
（市）　：鈴木教育長
(策定委員会)：八田委員長、髙梨副委員長、大友委員、金子委員、大塚委員、菅原委員、島﨑委員、加藤委員
（事務局）：生 涯 学 習 課 ：斉藤主幹、島本副主幹、石井政策専門官、井口主任学芸員
コンサルタント３名

【会議資料】

【資料1-1】(仮称)浦安市子ども図書館基本構想策定懇談会設置要綱
【資料1-2】(仮称)浦安市子ども図書館基本構想策定懇談会委員名簿
【資料2-1】(仮称)浦安市子ども図書館基本構想策定の概要
【資料2-2】(仮称)浦安市子ども図書館基本構想策定フロー
【資料3】(仮称)浦安市子ども図書館基本構想の策定体制
【資料4】(仮称)浦安市子ども図書館基本構想策定懇談会のスケジュール
【資料5】現時点における浦安市の子どもの読書活動に関する現状と課題の整理
【資料6-1】(仮称)浦安市子ども図書館基本構想策定に向けた意識調査の概要
【資料6-2】(仮称)浦安市子ども図書館基本構想策定に向けた意識調査の設問(案)の一覧
【参考資料1】国の動向と全国的な子どもの読書に関する実態
【参考資料2】子どもの読書活動推進等に関する浦安市の既定計画における取り組み
【参考資料3】浦安市の人口推計から見えること当日配布
【参考資料4】市立図書館の現状と課題について
【参考資料5】浦安市の各種意識調査等からみた課題

【会議次第】

１．委嘱状の交付
２．開会
教育長あいさつ
会長・副会長の選出及びあいさつ
※会長として委員の中から中澤委員の推薦があり全員一致で了承された。また、副会長には、中澤会長より汐﨑委員が指名された。
３．議事
(1) 基本構想の策定概要について
事務局：資料２－１、２－２、３、４に基づいて説明。

委　員：作業項目の部分で、７月の項目に、意識調査の調査項目の検討とあるが、今現在、検討しているということか。

事務局：検討を進めている段階である。後ほど資料 6-2 に基づいて説明させていただく。

委　員：Uモニとはどういったものか。

事務局：浦安市にお住まいの方にモニターを募り、アンケートに答えていただくシステムである。浦安における市政モニターと考えていただくとわかりやすいと思う。

委　員：決まった方にアンケートを答えてもらう、Ｗｅｂアンケートということか。

事務局：決まった方ではなく、市政モニターとして登録している方ならどなたにでも回答いただけるものである。浦安市のホームページよりログインいただき、市政情報、市民の声（広聴）、Uモニと入っていただければ、確認いただける。

(2) 現時点における浦安市の子どもの読書活動に関する現状と課題の整理

事務局：参考資料１に基づいて説明。

委　員：中学生までの読書習慣が不十分とは、どのような基準で十分なのか。何か考えがあるか。

事務局：明確な基準があるわけではない。小学生と中学生の単純な比較はできないが、読書冊数や読書に費やす時間など、小学生より中学生の方が減少している傾向があることから、不十分であると考えている。

会　長：中学生で読書冊数や読書に費やす時間が減少しているからといって、読書習慣が不十分といって良いものか。中学生では生活スタイルも変化していくものであり、小学生とそのまま比較して良いものなのか。

委　員：中学生になってからの読書習慣なのか、中学生になるまでの読書習慣なのかという部分も疑問である。

会　長：今後議論をしていく中で、読書習慣に関して何らかの定義をしていかないと議論が難しい部分もあるのではないか。

委　員：読書習慣がついていると示される、具体的な数字のラインはあるのか。

委　員：数字でラインを示すのは難しい。何冊も読むことが一概に良いともいえない。小学生は短い本を何冊も読んだりするが、中学生では、長い本を１ヶ月かけて読むこともある。

委　員：不読率が重要ではないか。国においても不読率は調査されている項目である。国としても読書を推進しているのに、不読率が依然として高いことが大きな課題となっている。

委　員：不読率は現在横ばいとなっている。様々な読書推進事業を実施しているのにも関わらず、なぜ不読率が依然として高いのか。不読率が高いのは、現在実施している読書の推進方法が誤っているのではないか、という部分につながってくると思われる。

委　員：小さい頃の読書習慣の形成に、もっと工夫ができるのではないかということか。

委　員：そのとおりである。別の調査だが、大学生の不読率もとても高いのではなかったかと記憶している。

委　員：読書習慣の指標的なものをどのように設けるか。

委　員：何をもって読書とするかという問題もある。趣味としての読書と学習としての読書の違い等の扱いも難しい。

委　員：具体的に何を読んでいるのかという部分も大事である。雑誌や漫画は読書なのかという部分も議論する必要があるだろう。

教育長：国の調査を鵜呑みにするのではなく、読書の質を考えることも重要だということで、とても良い意見をいただいた。指標的な部分も再度調べさせていただく。

事務局：参考資料２に基づいて説明。

委　員：読書推進計画の策定期間はどのようになっているのか。各計画の策定時期がずれることは気になる部分ではある。国全体の傾向と浦安の現状とでどう整合性を取っていくかも重要であると思う。

事務局：浦安市子ども読書活動推進計画の計画期間は、平成 26 年度から概ね５年間としており、本来であれば、見直しの時期であるが、現在、総合計画や教育ビジョン、生涯学習推進計画等が進められていることから、これらの計画と整合のとれた計画としていくことで考えている。

委　員：子ども図書館の整備に関する内容が今年打ち出されたのであれば、浦安市子ども読書推進計画等とも整合性が取れれば良いと思う。

事務局：参考資料３に基づいて説明。

委　員：浦安市における人口が、減少から増加に転じる根拠は何かあるか。

事務局：日の出地区等の埋立地に住宅開発の余地がある。そこに人口増加の可能性をみている。18 歳以下の人口についても一定の割合が維持されると予測している。

会　長：新町の再開発のほうも、今後進んでいくということか。

事務局：学校に負荷のかからないペースで、開発を進めていく予定である。

委　員：外国籍の子どもや障がいのある子どもに関してのサービスとしてはどのようなものがあるのか。

事務局：すべての言語について網羅しているわけではないが、図書館では外国資料を所蔵している。だが、利用が少ないので今後 PR も必要かと思う。また、障がいのある子どもへのサービスについては、子ども個人に対する支援が足りない部分がまだあるので、今後も引き続き取り組んでいきたいと考えている。

委　員：学校や養護施設への支援は、何か行っているのか。

事務局：市内の特別支援学級がある学校には、読み聞かせを行っている。市内には特別支援学校がないため、読み聞かせを行っていない。

教育長：特別支援学校は県が設置するもので浦安市にはないが、浦安市内の全小中学校に特別支援学級を設けることを進めている。

委　員：ディスレクシアの方への支援は何かあるのか。また、ディスレクシアの登録のようなものが何かあるのか。

委　員：障がい者手帳の有無に関わらず、様々なサービスを利用できるようにしている。ディスレクシアの方は字が大きいほうが良いようなので、大活字本も所蔵している。様々な障がいの方に対して、個人で利用できない本や機器などを、図書館で取り寄せて利用してもらうなどのサービスも展開している。

委　員：大人が子どもの障がいに気づいて申請することはできるが、年齢の低い子どもが自発的に自分の障がいに気づくことは難しいので、そこが課題となると思う。

委　員：浦安市の外国人に関しては、2011 年で一度減少し、現在は元に戻っている。図書館だけでは外国人への支援が難しい部分もあり、英・中・ハングル語の図書館の利用案内を作成し、学校で配布してもらっている。また、外国人同士での、口コミの力が大きいと感じる。新刊が入ると利用が増える傾向があり、口コミで情報が広まっていると感じる。

会　長：外国人の潜在的なニーズはあるものか。

委　員：ニーズはある。

事務局：参考資料４に基づいて説明。

委　員：学校との連携の部分で、現在どのくらいのボランティアの方がいらっしゃるのか。

事務局：具体的な数字はないが、保護者の方に読み聞かせや図書館の本の修理を各学校で行っていただいている。

委　員：読み聞かせ等のスキルアップについて、何か支援しているのか。

事務局：学校司書が保護者に読み聞かせの研修を行っている学校もある。保護者が実施した読み聞かせの記録（読んだ本のタイトルなど）を学校で共有している学校もある。

委　員：ボランティアの質の向上には図書館は関わっていないということか。

委　員：講師派遣の希望があれば派遣している。また、図書館で読み聞かせの入門講座も実施している。カウンターでは、読み聞かせの方法や読み聞かせに向く絵本の相談なども受けているので、そういった部分でも支援できていると思う。

委　員：学校司書と図書館の関係はどうなのか。

委　員：学校司書に対する定期的な研修会を実施している。団体貸出サービス（１年間の長期間貸出）や、調べ学習への支援（短期間貸出）も実施している。年１回、読み聞かせやブックトークに関する研修も実施している。図書館職員の児童サービスに関する研修会には、学校司書も参加できるよう案内している。

委　員：浦安市の学校司書は、司書の有資格者なのか。

委　員：有資格者のみである。

委　員：読み聞かせのボランティアは、人によって熱意やスキルが異なることが気になるところである。幼稚園では読み聞かせの講座があったが、小学校では無く、人によって読み聞かせのレベルに差がみられる。しかし、講座を開いたとしても、参加すること自体を面倒と思う方もいるので、対応が難しい部分でもある。

事務局：人材育成の部分についても、子ども図書館で行っていかなければいけない部分だと考えている。長い目でみた支援を実施していくことを視野に入れたいと思う。

委　員：保育園への支援が大事であると思っている。特に小さい保育園では、本を買えなかったり、読み聞かせもできない状況の施設が多い。

会　長：小規模保育園への支援も視野に入れることが大事である。

事務局：参考資料５に基づいて説明。

委　員：浦安市としては、子ども図書館の対象を０～18 歳と想定しているが、高校生に対する調査は予定しているのか。

事務局：実施予定である。これまでの各種の意識調査には、中学生までを対象としたものはあるが、高校生が対象の調査はなかった。

委　員：浦安市としても高校生に調査するのは、初めてということか。

事務局：浦安市では、初めてである。新たな試みとして実施させていただく。

事務局：資料６－１、６－２に基づいて説明。

委　員：子育て世帯へのアンケートの部分で、読み聞かせの経験に関しての設問は、家庭の読書文化を、親子間で引き継いでいるかが見えてくる部分でもあるので、ぜひ聞いていただきたい部分である。

委　員：高校生に関しては、浦安市外から通っている高校生も多いと思われる。浦安市の市外から通っている方と市内から通っている方を分けてクロス分析をすると、浦安でこれまで行ってきた児童サービスの効果や成果もみえてくるのではないか。

事務局：基本的に学校の協力の下での調査となる。できる範囲での対応となる可能性もあるので、ご了承いただきたい。

委　員：現在、市立図書館で連携しているのは、小学校と中学校のみか。

事務局：保育園、幼稚園、認定こども園、小学校である。

委　員：連携とは違うかもしれないが、中学校からは職業体験を受け入れており、高校については、生徒に図書館の行事に参加してもらっている。

委　員：その参加者は、市内在住の高校生に限っているのか。

委　員：浦安の高校に通っている高校生が対象なので、市外在住の生徒も含まれている。この行事は、人数制限があるのが課題ではあるが、継続的に図書館に来てもらうことを目的にして開催している。

４．その他

事務局：次回の懇談会は９月 28 日（金）14 時から、市役所 10 階協働会議室で開催。

５．閉　会

以上